

吉野復興大臣の経済団体訪問ぶら下がり会見録  
(平成30年1月19日(金) 14:20~14:25 於) 経団連会館)

1. 発言要旨

まず、経団連の皆様方に御礼、昨年11月に「東北復興応援フェスタ」というものを経団連主催で開催いただきました。

本当にいろいろなイベントやマルシェ等を通じて、東北の被災県に対して、陰に陽に御支援いただいております。そのことに対して感謝の言葉を申し上げてまいりました。

特に、被災3県の風評被害対策、会長もここが一番大事なところだというような認識でございまして、特に、昨年12月に策定した「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」、これをきちんと経団連としてもフォローアップをしていただくようお願いをし、社員食堂で被災地の食材をきちんと使ってくれる、贈答品も使ってくれる、また放射線に対する研修等々もきちんとやっていただきたいということをお願いしたところ、それも快く引き受けていただきました。

本当に官民一緒になって我が国から風評をなくしていきたい、このように考えております。

もう一つは、企業立地のお願いもしてまいりました。

被災地にとってはやっぱり働く職場です。これがないと幾ら住まいができて、生業ができて、やっぱり働く職場が一番でございますので、そこをお願いもし、いろいろな支援制度も御理解をいただいておりますので、それも会員企業の皆様方にお知らせをするというお約束もいただいたところです。

最後に、会員企業の会社から多くの社員の方々が復興庁の職員として派遣をされております。そこに対してのお礼も言わせていただきました。

特に会員企業の皆様方は、大企業でございまして、被災地は中小企業でございまして。幾ら中小企業でアイデア出しても、それをどういう形で販売していったらいいか、そういうノウハウがございません。

そういうところを、出向をしておられる会員企業の皆様方が、「結の場」という事業を通してマッチングをしていただいております。そこへの御礼もあわせて言わせていただきました。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 榊原会長の方から、我々も冒頭お聞きしたんですけれども、企業立地、その他について、いろいろ具体的なお話、何か大臣の要

望に対する回答はどうしたものなのでしょうか。

(答) 企業立地については、具体的なものはございません。

(問) 榊原さんの方からはどんなお話が。

(答) まず風評のお話ですね。例えば、会津若松というと、正に修学旅行のメッカでございますが、それがまだ7割くらいしか回復しておりません。

もう7年を迎えようとしているのにも関わらず、そのくらいしか回復しておりませんので、本当にいいところで観光の名所なんだから、風評をなくしていこう、こういうお話を伺いました。

(問) 強化戦略ができて、今回は要望という形になったと思うんですけど、それで経団連に対して、強化戦略ができたことによって要望しやすくなったとか、あるいはこれを要望できるとか、そういったところはありますか。

(答) 私がお願いしたのは、30年度予算が通れば、4月、5月辺りから電波を使ってCMをやったり、インターネット等で放射線に対する理解を深める事業がございします。

これはリスクコミュニケーションの学識経験者を交えて、どういう方法がいいのかと一応復興庁なりに出して、これからやるんですけど、そのフォローアップですね。

経団連として、その復興庁の事業を見て、もっとうやれば、もっと国民に伝わるよとか、そういうフォローアップもお願いしたいということで、お願いしてきたところです。

そして、試行錯誤ですから、どういう手段を使えば、もっと国民の一人一人の胸に、心に、放射線の理解が入っていくかという、それはやっぱり一復興庁だけの仕事ではなくて、そういうレベルアップというか、よりいいもの、最初から完璧な100%のものはできないと思いますので、そういうところもお願いしてきました。

以 上